

## 「学校法人常葉大学の長期ビジョン・中長期計画等」に基づく中期計画の実施状況

平成27年度に策定した「学校法人常葉大学の長期ビジョン・中長期計画等」に基づく中期計画の実施状況(概要)について報告します。

### 1. 常葉大学

#### (1) 大学運営のための組織体制の整備

部長会、教授会、各種委員会など、学内組織の機能分担をより明確にし、全学的審議機関である「部長会」を責任主体として、学長のリーダーシップの下、「大学企画運営会議」、「自己点検・評価委員会」、「FD・SD委員会」とが連携し、教育の質保証の体制づくりを行った。

#### (2) 教育の質を保証するための抜本的なカリキュラム改善

平成25年度の3大学統合を契機にカリキュラム改善に取り組み、平成30年度から新カリキュラム(全学共通科目)による教育を開始した。

#### (3) 各種基本方針に基づく具体的方策の実施

研究推進においては、共同研究費の効果的な執行や外部資金の採択に向けた支援の充実を行い、地域連携・交流推進においては、「私立大学等改革総合支援事業タイプ5(プラットフォーム形成)」に採択された。

また、高大連携については、高大連携学長・校長会議を置き、附属高校を対象とした連携講座の開催及び「附属高校推薦入試(指定校推薦)」の新設など、高大接続教育の強化に努めている。さらに、3附属中学・高校が共催したアクティブ・ラーニング授業研修会に大学教員も参画し、大学教員及び中高教員の指導力並びに授業力強化に取り組んでいる。

#### (4) 少子化に対応した学生確保対策と入試改革の実施

令和3(2021)年度入試から導入される新しい入学者選抜制度に関しては、大学及び各学部・学科のアドミッション・ポリシーに合った入試改革について検討している。

#### (5) 学生の満足度向上を図るための各種支援

教学支援に関しては、「主役は学生プロジェクト」を発足させ、学生アンケートや学生代表と大学役職教員との懇談会等を開催して学生の声を聞く機会を多く設けるとともに、これらの声を大学の運営に反映させることによって学生の満足度が高まるよう努めている。

また、施設面においては、平成30年度に静岡草薙キャンパスを新設したほか、静岡・浜松両キャンパスに基礎教育センター並びに学生支援センターを整備し、学生の様々なニーズに対応している。

#### (6) 教育研究組織のあり方の検討

様々なケース・スタディを想定しながら再編計画等のあり方について検討している。

### 2. 常葉大学短期大学部

#### (1) 計画中における学科再編も視野に入れた大学運営を行う

保育科の定員変更、英語英文科及び専攻科国語国文専攻の廃止を行った。

#### (2) 少子・高齢化や国際化などの社会の変化や地域のニーズに的確に対応した教育組織の構築を図り、各種規程などの見直しを行う

常葉大学と連携した委員会組織を構築するとともに、教員の任用及び昇任に関する規程・基準の一部を改正した。

#### (3) 常葉大学との連携をより深めることで、リカレント教育、国際交流、地域貢献などを含む幅広い教育活動ができる環境整備を図る。

教職支援センターと連携した保育ゼミナールや教員免許更新講習、地域貢献センター及び地域連携推進委員会と連携した公開講座や公開演奏会（音楽科）等を実施した。

**(4) 短期大学の独自性を明示しうる3つのポリシー（AP、CP、DP）を定め、教育の質を保証するため、教養教育科目を含むカリキュラム改正を実施する**

本科及び専攻科ともに3ポリシーを策定し、HP上で公開した。

教養教育を含む各科のカリキュラムの一部を改正し、平成31（令和元）年度から実施した。

**(5) 常葉大学との共存（棲み分け）に配慮したアドミッション・ポリシー（AP）を定め、これに対応した入試改革を実行し、少子化に対応した学生確保対策を講ずる**

常葉大学と入学試験日、試験会場、募集広報等を共通化したほか、入試改革も常葉大学と歩調を合わせて検討している。

**(6) 短期大学部に必要な研究、広報、社会連携、国際交流、情報などの組織体制を維持・継続する**

科長会、教授会、各種委員会など、学内組織の機能分担をより明確にし、全学的審議機関である「科長会」を責任主体として、学長のリーダーシップの下、教育の質保証の体制づくりを行った。平成30年度からは、常葉大学の全委員会に短期大学の教員が加わることで、常葉大学と連携した組織体制となった。

**(7) 学生の満足度向上を図るため、学習環境・学習支援体制、キャリア形成への支援、学生生活への支援を充実する。**

学生アンケートや学生と教員との懇談会等を通じて学生の意見を汲み取り、それらの声を短期大学の運営に反映させることによって学生の満足度が高まるよう努めている。

**3. 常葉大学附属常葉中学校・高等学校**

**(1) コース別・系統別の特色を生かし、国際社会で活躍する能力・資質や幅広い視野を身に付けさせ、看護・医療・保育等の進路に進んで行くために必要な能力・資質を育む。**

平成30年度から総合進学コースを常葉大学進学コースに、平成31（令和元）年度からグローバルスタディーズコースを特別進学コースに変更した。常葉中学校においては、総合的な学習の時間をキャリア教育に重点を置く教育内容に改編した。

**(2) 60%以上の生徒が常葉大学・短期大学部に進学できるよう努めるとともに、学業のみならず、部活動、生徒会活動、ボランティア活動などの諸活動においてもリーダーとして活躍できる能力・資質を育む。**

進路ガイダンスを常葉大学の各学部学科紹介から始めるように切り替えたことで常葉大学及び同短大部への進学意識が高まっている。

**(3) 新しい学力観や新しい試験に対応する学力を身に付けることができるように、普段の授業改善に取り組む。特に、国際社会で活躍できるコミュニケーション能力の育成に取り組む。**

アクティブ・ラーニング研修会を実施、図書館にiPad 40台を導入し、Wi-Fi設備も整え、これらを活用した研究授業も行った。ALTとのティームティーチングを充実させ中学校共に英語教育を重視している。

**(4) 生活指導を重視し、教職員が一丸となって指導と支援に取り組むとともに、「安全・安心」を大切にし、防災や危機管理意識向上に関する指導を充実する。**

環境美化への取り組み、あいさつ運動、ネット利用マナー講座、防災訓練など実施することで効果が認められた。

- (5) PTA、母の会、同窓会、地域住民に対し様々な情報を発信して本校に関心を持ってもらい、より良い学校づくりのパートナーになってもらえるよう努める。

ホームページをリニューアルするとともに校外掲示板用のプリンターを購入し、部活動の活躍を掲示している。

- (6) 常葉大学・同短期大学部との連携を柱に中高の生徒募集を行い、定員確保をめざす。

同窓会などに生徒募集の協力をお願いした。募集広報推進委員が積極的に募集活動に取り組んでいる。

#### 4. 常葉大学附属橘中学校・高等学校

- (1) 教員の資質向上を図る。

常葉大学教員を助言講師に、附属中学校・高等学校のアクティブ・ラーニング研修会を実施している。教員が校外外での研修に参加することによりスキルアップに努め、授業内容の充実を図り、生徒の学力向上に取り組んでいる。

- (2) 授業改善による学力の向上を図り、生徒自らが進んで学習する学びの姿勢を確立する。

生徒の主体性や思考力を伸ばすことを目的として、「タチバナクエスト」という問題解決型学習を取り入れ、「新テスト」に向けた対応を図っている。

- (3) 教員自身が進路指導への学習の機会を深める。

本校全教員に対して駿台の講師を招き、新テスト対策研修会を実施した。

- (4) 生徒指導を充実させ、落ち着いた学校生活をつくり出す。

「交通安全」「薬学講座」「ネットマナー講習」などを計画・実施した。

- (5) 学校行事を見直し、生徒の感性を揺さぶり、視野を広める機会をつくる。

進路意識の啓蒙を図るべく、英数科・一貫αで東京や名古屋の大学を見学、将来のリーダーになるための「リーダーゼミ」などを実施した。

- (6) 新校舎、グラウンドの完成にともない、環境美化、公共物を大切にす指導を行う。

公共物を大切にす心を育てるために、美化委員、部活動やボランティア活動に積極的に参加している。

- (7) 人間教育を大切にす部活動の在り方を重視する。

「臨場指導」のなか、「競技・種目=人間形成のための手段」「部活動=社会の縮図」という位置づけで全部活動を運営する。

- (8) 防災教育を徹底する。

新校舎、新グラウンドによる防災計画を作成した。

- (9) 夢広がる中学校へと改革を図る。

3年生の学力定着のため成績別に分けて補講（8月）、全校交流会（10月）や職業体験（12月）など、新たな取り組みを実施した。

- (10) 新校舎完成と常葉大学との連携を柱に中高の生徒募集を行い、定員確保をめざす。

入試広報会議を通して、説明会の内容を来校者目線で検討した。

#### 5. 常葉大学附属菊川中学校・高等学校

- (1) 科・コースの特徴を生かし、効果的な指導を実践する。

菊川市との連携を通して、自己発信力を育成すると共に地域貢献を取り進めている。

- (2) 授業内容の充実（特に、発見学習・体験学習・問題解決型学習・調べ学習・プレゼン等の手法を取り入れた授業の実践）を図り、学力を定着させる。

アクティブ・ラーニングの取り組み、各テストの分析など効果的な学習体制をつくっている。

- (3) 生活指導を重視し、事故やいじめや非行等を未然に防ぐ指導を行う。

挨拶・服装・身なりなどの基本的な生活習慣やマナーなどの社会生活の基礎を身に付けることを根幹に据え指導にあたっている。

- (4) 進路指導の充実を図る。（※常葉大学との連携強化）（※地域社会との連携強化）

担任を中心に、受験概況など積極的な情報提供を行い、各科コース・学年の特色を活かした取り組みを実施している。

- (5) 環境美化や公共物を大切にす指導を行う。

生徒会と有志で地域のボランティア清掃を行っている。

- (6) 防災や危機管理に関する指導を行う。（※地域社会との連携強化）

防災訓練として、避難訓練、地域別集合訓練、消火訓練、校舎からの脱出訓練を毎年行っている。

- (7) 学校行事・生徒会活動の充実を図る。

行事に積極的に参加させるために、生徒の自主的な行動を促し主体的に運営させた。教員が主導的に動いていた時より生徒の活動が活性化している。

- (8) LHR・SHR を効果的に活用する。

中学では朝読書（読み聞かせ）を継続、全校集会を多く行い、全体での連携を大切にしている。高校では学年ごとに集会や・進路関連行事などを行い、科・コース内の連携づくり、クラス参加の行事に積極的な姿勢を見せている。

- (9) 部活動の充実を図る。

部活動を人間教育の場として捉え、その上でより高い目標に向かわせている。

- (10) 「自己評価」や「学校関係者評価」を活用し、生徒・保護者・同窓生・地域から信頼される学校づくりに努め生徒募集にも結びつける。

「自己評価」と「学校関係者評価」を実施してホームページにて公表している。また、得られた評価結果を分析し、次年度の指導計画に反映させるべく具体的な目標・方針・方策として掲げている。

## 6. 常葉大学教育学部附属橘小学校

- (1) 小中一貫教育の検討 小中9年間一貫した教育課程のあり方を検討する。

具体的な取り組みは現在のところ行われていないが、橘中学校の若手教員が小学校の授業見学やバザーなど小学校の行事に参加し小学校への理解を深めると共に、小学校の教員が中学校の授業参観を行い、中学校への理解を深めている。

- (2) 創造的資質・能力の高い児童の育成

学校教育目標「生きる力を互いに高め合う児童の育成～三方よしの実践を通して～」、重点目標「確かな学力、たくましい心身、豊かな心」にせまるため日々の教育活動を行い、創造的資質・能力の高い児童を育成している。また、20人学級という少人数学級のよさを生かした指導、すなわち、一人一人に目が届くきめ細やかな指導をしている。

(3) **教育研究小学校としての特色化を図る**

常葉大学教育学部附属小学校として研究テーマを定め、大学と連携して教科ごとに大学教員の指導、助言を受け、質の高い授業を展開できるよう研究している。県内外の教員参加の「授業研究会」を実施している。

7. **幼保連携型認定こども園常葉大学附属とは幼稚園・たちばな幼稚園**

(1) **地域の子育て相談など、地域が求める教育・保育活動の拠点園としての機能を果たす。**

地域の保育ニーズに対応し、未就園児の園開放や育児相談なども実施している。

(2) **学園内の各園・学校との連携を深め、時代の変化に応じた教育・保育の研究実践に努める。**

兩附属幼稚園の園児、附属橘小学校1年と幼稚園の5歳児が交流活動を実施している。また、大学・短期大学部学生、附属高校、中学生が園行事にボランティアとして参加して連携を深めている。

(3) **少子化時代に対応し、機能を推進する。**

平成30年4月、幼保連携型認定こども園に移行し、長時間保育や保育年齢の拡大を行った。

8. **法人本部**

(1) **ガバナンス充実のための基本方針**

教職員基本研修のプログラムについて大幅に見直しを行い、特に管理職研修にはOJTや労務管理を含めた外部研修を導入した。内部監査体制について検討し、会計監査との意見交換を充実するなど連携を強化してきた。

(2) **コンプライアンス強化のための基本方針**

コンプライアンス委員会で行動規範及び倫理行動基準を制定し「コンプライアンス・マインドカード」を教職員に配布した。コンメンタールの整備、業務マニュアルの作成、コンプライアンスチェック体制の確立にも取り組んだ。

(3) **建学の精神～建学の精神の再検証～**

平成29年4月、3中学・高校を附属化し、法人名も変更するこのタイミングを契機に、学生・生徒・児童・園児が共通理解でき、なおかつ外部へも発信していくことを意識し、次のとおり建学の精神の表現を再構築した。

**より高きを目指して～ Learning for Life ～**

常に青々とした葉を繁らせ、純白な花を咲かせて黄金の実を結ぶ橘こそ、常葉の象徴。美しい心を持ち、より高い目標に向かってチャレンジし、学び続ける姿勢こそ、常葉の精神。

(令和元年5月25日 理事会・評議員会報告)